

【重要なのは土づくり】

父の隆徳さんと母の由美子さんの3人で約20畝の農地に水稲とスイートコーンを栽培しています。幼少期から農作業の手伝いをし、農業に興味を抱いた研介さんは、高校・大学で農業の知識を身に付けてから就農しました。

現在は、次年産の農作物に影響が出ないように営農の基本となる土づくりに力を入れ、品質の高い農作物の栽培を目指しています。

農業に
懸ける
情熱



「消費者に評価される農作物を栽培する」
「実家が農家で幼い頃から農業と隣り合わせの環境で成長し、気が付いたら農業に興味を持っていました。中学校卒業後は、高校・大学ともに農業分野に特化した学校へ進学して農業について学び、自然な流れで就農しました」と話してくれた研介さん。
今年で就農して約10年が経過し、春に父・隆徳さんから経営移譲を受けました。「農作業については徐々に慣れてきましたが、経営面については不安があります。資金の使い方や上手に経営するためのノウハウなど覚えることはたくさんありますが、わからないことは周囲からアドバイスをもらい、自分なりに少しずつ覚えていこうと思えます」と話してくれました。
研介さんは今年から青年部の本部役員を務めており、「本部役員を任されて大きく変化したことは、他JAの青年部員と交流が増えて知見が広がったことです。他JAの青年部員と顔を合わせる機会が多くなり、情報共有も豊富にできることから自分の農業の幅が広がりました。今後は青年部活動でできたつながりを活かしていきたいです」と青年部活動に参加するメリットを感じている研介さん。
「自宅前で直売所を設けて農作物を販売していますが、おおいしかったからまた買いに来たよ」というお客さんの声を聞くと、自分の農作物が評価されたと実感でき、心の底から嬉しさを感じます。現在は自宅前での販売のほか知り合いを通じて農作物を販売していますが、より多くの方に評価していただくために、今後は付加価値を付けて幅広い形で販売し、全国に自分の農作物を広めていきたいです」と農業に懸ける情熱を話してくれました。



三笠市岡山

しみず けんすけ

清水 研介

さん(32歳)